



令和3年度池田市環境学習推進事業

「いけだ環境交流会（エコ活動報告会×環境学習交流会）」実施報告書

1. 事業目的

令和3（2021）年度に実施した池田市の環境施策について、実施事例の共有を図り、環境保全活動の水平展開と、SDGsの価値観による持続可能な社会構築の契機とすることを目的に本事業を開催しました。

2. 開催日 令和4（2022）年3月19日（土曜日） 10時30分～12時

3. 開催方法 Zoom ウェビナー方式によるオンライン開催

4. 主 催 池田市

企画運営事務局：NPO 法人いけだエコスタッフ

5. 実施内容

10時30分 開演 主催者挨拶

主催者挨拶 池田市環境政策課 椿

司会 池田市環境政策課 荒木

10時35分 池田市の環境活動報告（90分）

①池田市の環境施策の実施状況について

池田市環境政策課 椿

②エコミュージアム（池田市3R推進センター）の活動報告

NPO 法人いけだエコスタッフ 片岡（指定管理受託者）

③池田市環境学習推進事業の報告 ～池田市内小学校での取組事例紹介～

・「One for all All for one みんなに幸せ運ぼう大作戦

～まちをきれいに」

池田小学校4年4組の子どもたちと山田先生

ゴミのないまちにするために、身近にできる事は何だろう、という視点で、食事の完食、ゴミ拾い大会やマッチングサービスなどのアイデアをみんなで出し合い1年間活動しました。

・「Think Globally, Act Locally SDGs～私たちにできること」

五月丘小学校6年1組の子どもたちと古賀先生

グローバルな視野でSDGsに関する課題を考え、自分たちでできることを考えていきたいという思いから、地域を探索するSDGsウォークや、自ら行動する7Daysチャレンジなどたくさんの人たちに学び1年間活動しました。

・情報提供

日本地球惑星科学連合 2021 年大会での口頭発表について「オンラインツールを用いた官民連携 STEAM 教育(宇宙分野)の推進」

東京大学大学院 理学系研究科 地球惑星科学専攻 沼 倫加さん

2020 年 8 月 26 日に池田環境学習推進事業で実施したオンラインセミナー「おうちでたのしく『さんすう×宇宙』」を題材とした、2021 年 6 月に行われた日本地球惑星科学連合 2021 年大会での口頭発表の内容について動画ビデオにて紹介しました。

・ Q&A

12 時 終演

・終演後アンケートを実施しました。

6. 参加者について

①参加対象 一般市民、池田市出前教室講師など 定員 100 名
PC、スマホ、タブレットなどの通信機材を用いて、アプリ「Zoom」を使用できる方。

②申込者の状況 申込者数 37 名（定員 100 名） 参加者数 32 名

※申込詳細

区分	件数
教員・教育関係	4
一般	29
小学生	2
中学生	1
高校生	0
大学生	1
計	37

7. 参加者のアンケート結果

Zoom の機能を利用し参加者のアンケート調査を行った。

アンケート回答者数 20 名

設問 1 オンラインセミナーは、はじめてですか？

参加者の 7 割が既にオンラインセミナーを経験。

項目	件数	割合
はい	6	30%
いいえ	14	70%
計	20	100%

設問2 今日のオンラインセミナーはどうでしたか？

参加者の9割が「楽しかった」を選択。

項目	件数	割合
とても楽しかった	10	50%
楽しかった	8	40%
ふつう	2	10%
楽しくなかった	0	0%
計	20	100%

設問3 今日のオンラインセミナーの長さはどうでしたか？

参加者の7割が「ふつう」を選択。

項目	件数	割合
長かった	0	0%
やや長かった	6	30%
ふつう	14	70%
やや短かった	0	0%
短かった	0	0%
計	20	100%

設問4 今日のオンラインセミナーのなかで、よかったのはどれですか？

参加者の約7割が池田市環境学習事業報告～池田市内小学校での取組事例を選択。

項目	件数	割合
池田市の環境施策の実施状況について	4	13%
エコミュージアム（池田市3R推進センター）の活動報告	3	10%
池田市環境学習推進事業の報告～池田市内小学校での取組事例紹介	19	63%
情報提供「オンラインツールを用いた官民連携STEAM教育(宇宙分野)の推進」	4	13%
計	30	100%

設問5 またオンラインセミナーに参加していますか？

参加者の7割以上が「参加したい」を選択

項目	件数	割合
絶対参加したい	3	15%
参加したい	12	60%
どちらでもよい	5	25%
参加したくない	0	0%
計	20	100%

8. Q&Aコーナー

<p>Q：小学校の素晴らしい取組に感動しました！それぞれの学校にご質問です。どの程度の時数で実現できた取組でしょうか？先生も、ものすごく大変だったと思います。工夫されたことや苦勞されたことは何でしょうか？</p>	
<p>A：(池田小学校 山田先生)</p> 	<p>時数はかなり使ったと思います。他の教科、例えば社会科であれば4年生は「ゴミの事」や水の事を勉強するので他の教科と抱き合わせたり国語でも「発表や資料づくり、プレゼン」の単元があるのでそういった所と合わせる事で本当の時数よりは多く取ってできたかと思います。スタートの段階から環境についてやろうとか福祉についてやろうとかは決めずに、子どもたちがやりたいことを掴み取って（キャッチして）それを次にどのように繋げていくかを大事に考えてやりました。毎回「振り返り」を書く時間を大事にしている、子どもたちがどのように感じてどのように思ったのか？を子どもたちたちが書いたものから読み取って、次はこういうことに出会わせてあげればその進展があるか？とか又新たな疑問がうまれるかな？という感じで進めていました。とはいえコロナでなかなか上手くいかなかった部分もあったのですが、子どもたちは満足な活動ができたかなと思っています。</p>
<p>A（五月丘小学校 古賀先生）</p> 	<p>時数として6年生の総合的な学習の時間が70時間ありそれは全部使わせていただきました。SDGsの問題は、例えば二酸化炭素の排出の問題であれば理科の事になりますし、国際的な約束、SDGsの取り決めであれば社会科になります。私たちはそういうのは教科横断的と言っていますが、そういう形で理科や社会科を使ってやっているのでも総合的な学習の時間70時間に理科や社会科を含むと100時間くらいにはなるかなと考えています。</p>
<p>Q：先生方から見た児童の日々の学校生活での行動や意識の変化はどのようなものがありましたか？</p>	
<p>A：(池田小学校 山田先生)</p>	<p>給食は、完食の日という、完食すれば1回ずつシールを貼っていくという池田市全体として行っている取組みがあるのですが、それも意識の問題で皆が真剣にとりくんでいるわけではないかと思うのですが、最初は完食する事でシールがもらえて溜まっていくという事が嬉しくてやっ</p>



た。すごい変わったと思うのは、完食しなくても食品ロスを減らそうという意識になっているから、完食できなければいっぱい残しても一緒かなと思ったのが、完食できなくてももう少し食べられるから食べるという様に食品ロスを減らそうという意識になっていた。ポイ捨てなんかは最後振り返りで書いてもらったのは、子どもたち同士でよく声を掛け合って防ぎあっている様で、公園でみんなと遊んでいる時でも、すごい意識が変わったというのが自分たちでも感じている様です。

A (五月丘小学校 古賀先生)




行動の変化というのははっきりとしたものは無かったと思うのですが、意識の変化では2つあります。一つは、この1年間大切にしてきたのは、身近なことから始める事について、身の回りに自分たちのできる事が結構あるんだという事がわかった事が収穫だと思います。SDGsでは色々な問題があり、それぞれが関連しあっていてそれぞれの事を解決していく事が大切なんだという、SDGsの正体がわかったことに意識を向ける事ができたことが、これから子どもたちがこの複雑な社会を生きていく上では非常に良かったのではないかと思います。

Q：両方の学校で共通して、夏休みの間で7日間チャレンジをされていましたが、代表的なチャレンジの取組とか発表で苦労された内容などを教えていただけませんか？

A：(池田小学校 山田先生)



1週間チャレンジは全員でやったのですが、意識の差やどの程度家庭でどうだったのかは子ども任せでしたが、たくさんの項目が出てきた中でできそうなことを自分で選んで取り組む様にしました。買い物なんかは家族の人と行くので、子どもたち自身ができる事は案外限られていて、マイバッグ持参とかもお家の人を巻き込まないと或いは子どもが巻き込もうという意欲や気持ちがないとなかなか難しかったのかなと思いました。子どもから身近なお家の人に発信するという機会だったので、そこをもう少しアプローチできれば良かったと思います。次回もしするのであれば、もう少し家庭を巻き込んでできれば面白いかなと思っています。学校の中では水筒を持ってきている事とか、割りばしを使わずにお箸を持ってきている事とか実際に当たり前のようにできている事も、い

	<p>っぱい話をして最終的に子どもたちが意識とか考え方に気づいたという感じです。</p>
<p>A (五月丘小学校 古賀先生)</p> 	<p>(五月丘小学校 古賀先生)</p> <p>キーワードだったのが「Think Globally、 Act Locally (シンク・グローバリー、アクト・ローカリー)」という言葉で、身の回りの事から始めようという事でやっていたので、エコスタッフの方からご提案いただき夏休みに自分でできる事があるのではないかと、子どもたちが自分で考えたことを取り組みました。例えば、節水チームは自分で節水して自分で水道のメータを測って節水ができていないか記録していました。或いは肥料づくりをして自分で実際にその肥料を使ってみるという取り組みをした子どももいました。その子は結局失敗したとは言っていたんですが、取り組んだことは良かったと思っています。ゴミ問題の子はお家の方がゴミ処理場に連れて行ってきて、どのようにお家のゴミを処理した方がいいのかを考えたとの事でした。風致地区について調べた子もいました。また、節電では自分で電気を消したりテレビを消したりして電気の料金がどのように変わるかを調べた子もいました。私が一番びっくりしたのは、全国から水を集めてきて水質調査をした子がいたのですが、並べて水質を比べるといった事をして、私も実家の熊本から水を持ってきてほしいと言われ、熊本から水を運んだという事もありました。全てエコスタッフの方からアイデアをいただいて進めさせていただきました。</p> <p>※「Think Globally、 Act Locally (シンク・グローバリー、アクト・ローカリー)」は「地球規模で考え、足元から行動せよ」という標語です。</p>

【実施状況】

池田市環境基本計画について

● 環境目標像

- 1. 健全な環境
- 2. 資源の有効な利用
- 3. 自然環境の保全
- 4. 環境の美化
- 5. 自然環境の保全

● 分野と柱

分野	柱
1. 自然環境の保全	自然環境の保全
2. 資源の有効な利用	資源の有効な利用
3. 自然環境の保全	自然環境の保全
4. 環境の美化	環境の美化
5. 自然環境の保全	自然環境の保全

3R リユース品の地域内循環

不要になった服・着物・かばん・食器など着けいらだきました品物は、
販売およびイベント等にて販売し、リユース（くり返し使う）させていきます。
その売上金は、コミュニティアムでの活動に活用し、池田市の環境保全に役立てます。

寄付いただいた数（2021年4月～2022年2月）

- 衣類 7,532枚 ⇒ 約28tのCO₂削減に
- 和服 476枚
- 和装小物 428点
- かばん 684個
- 食器 294個

寄付品の受付 毎週 水曜日と日曜日

One for all ALL for one
みんなに幸せ運ぼう大作戦！～町をきれいに～

池田市立池田小学校 4年4組

学校に広げるために、
2年生・3年生と、ゴミ拾い大会を
やってみよう！



なぜ食品ロスを
減らしたいと思ったのか

食品ロスを控えよう

食品ロスの取り組み

ダイエー・オアシス
食品ロスの取り組み

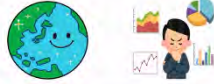
- ### マッチングサービスのルール
- ・チームを二つに分ける（お店とお客）
 - ・二人が同じものが欲しい場合じゃんけんで決める
 - ・じゃんけんで負けた人は不平等だから専用券を作る
 - ・もらったものは交換しない
 - ・ルールは守る

マッチングサービスをしている人たちは！
楽しそう！



think globally act locally

(地球規模で考え、足元から行動せよ)



②SDGsウォーク 五月丘地区の中を歩きSDGsに関連したものを見つけた

- 1.SDGsウォークの計画を立てた
・SDGsウォークで行ってみたいところ
・なぜそこに行ってみたいか



2.SDGsウォーク

SDGsに関するものや、市民の方々を考えたものなどを見つけた。

③SDGsリサーチ

SDGsのゴールに関連していることを、1人1人調べた。
(例 自動販売機、太陽光パネル)
それからグループで調べたことに関してエコスタッフの方にお話を聞いたりして、スライドにまとめ、発表した。



※池田市で環境学習の手伝いなどをしてきている人

夏休み

SDGsセブンデイズアクション

1人1人テーマを決めて、そのテーマにそって夏休みに家で7日間取り組んだ。



2学期

①SDGsマップ

五月丘地区の地図でSDGsに関するものがあつたところに写真、17の目標と関連づけた。



3学期

①授業参観(保護者の方に発表)に向けて、グループでスライドを作ったり動画を撮ったりして、発表をした。

今までにとり組んだこと

まず泥水を作ります。

取水グループのスライド

配水グループの動画の初め



②それぞれグループごとのテーマに沿ってSDGs宣言を作った。



「グリーンカーテン」と「CO2を出さない移動」共通点と関連性

- ・どちらもCO2を削減する取り組み
- ・SDGs関連: 13番



令和3年度いけだ環境交流会
(エコ活動報告会×環境学習交流会)

日本地球惑星科学連合2021年大会 (2021.06.06)
で行った口頭発表

「オンラインツールを用いた官民連携STEAM教育(宇宙分野)の推進」
の紹介

送 参加



実施結果：惑星の比較 9

惑星の大きさの比較

惑星の大きさの比較

惑星の大きさの比較

- 惑星の大きさを定性的に理解
- 実際の数値でも示すことで、定量的な理解も促進



参加された方の反応 13

約40人の大学の先生や中高の先生方が参加

- STEAM教育のひとつの目安になる事例である。
- 来年はSTEAM教育セッションも必要だと感じた。

<いただいたご質問>

「イベント時の気づきは特にどの学年ができていましたか？」
「また、男女ではどちらの方が気づきを得られていましたか？」

⇒ ・低学年ほど気づきが得られていると感じた。
・男女ではあまり差がないと感じた。

質問された方によると、
女子の方が気づきが得られやすいという結果がある。



「STEAM教育(算数×宇宙)」のオンラインセミナーでの今後の可能性 14

(例) Mitaka(国立天文台)を用いた宇宙×算数コンテンツ

- 算数分野(角度の理解)：
実際の夜空で星座を見つけるためには？
- 宇宙分野：
Mitakaを用いた惑星や星座の理解



以上